

JpGU2018 セッション「地球環境変化研究の新たな統合」企画の進捗報告と提案

安成・谷口・マレー・石井（地球研）

報告者 4 名がコンビーナーをつとめ、当委員会が実施主体のひとつとなる JpGU2018 ユニオンセッション U-07 「FutureEarth-GRPs による地球環境変化研究の統合」（5/20 PM1-PM2 12 口頭講演+ポスター）（以下、本セッション）について、これまでの経緯と 講演予定者など企画の進捗の報告、本セッションでの 講演・議論内容と 今後の展開について素案を提示する。

<これまでの経緯>

[時系列]

2017 年

- 7 月 ・[学術会議 FE 推進委員会] 谷口委員から本企画の趣旨（全文は資料 1 参照）を説明の上、当委員会が実施主体のひとつとなることを提案、了承される。その際、FE だけでなく WCRP の関連研究プロジェクトも共同で実施する旨提案があったが、この件は、第 24 期開始後に検討することになった。
- 10 月 ・本セッション企画をユニオンセッションとしてセッション提案。
・ユニオンセッション（2 コマ）としての採択が決定。
- 12 月 ・JpGU セッションスケジュール正式決定。本セッション：5/20 PM1-PM2。
・[学術会議 FE/WCRP 合同分科会] 谷口委員から本セッションについて説明。WCRP も含む GRP/CoreProject について FE/WCRP 合同分科会所属の 12 の対応する小委員会の代表に各プロジェクトについての本セッションの講演を依頼する旨、了承される。

2018 年

- 1 月 ・セッション様式が 2 コマ：15 分×12 講演+討論時間+ポスターに決定。
・FE/WCRP12 小委員会代表者にコンビーナーからメールにて依頼文送付、内 10 件につき講演者が確定（下記参照）。

[趣旨（2017 年 7 月 FE 推進委 資料より）]

現在の国際 FutureEarth の執行部（HQ：GC, SC, EC）と、実質的な研究主体である研究者、および分野・テーマごとの研究コミュニティである Global Research Projects（GRP、旧コアプロジェクト）との間の連携および協力は、FE 発足後、まだ十分に機能しているとはいえ、このことは相互の有効活用と FE コミュニティ全体の活動が見えにくい要因となっている。すなわち、HQ 側には、研究主体のもつ問題意識、最新科学的知見、地域・分野ごとの特性と障壁などの情報が活かされておらず、また各研究主体側も、FE ネットワークに属することのメリット（他の研究主体と共同研究の推進の機会、対象地域・分野の外の世界の社会的要請や問題意識などの情報）を十分に享受できていない。この状況は、日本国内についても当てはまるが、裏を返せば、日本国内でこの連携・協力を促進できれば、国内 FE の研究活動の活性化はもとより、国際 FE に対しても主導的な提案や刺激をもたらすことが期待できる。

そこで本企画では、日本地球惑星科学連合（JpGU）年次大会を、日本国内の FE, GRP コミュニティが一同に会する場とし、そこで、相互の情報共有、国内の地球環境問題研究の活性化（共同研究提案、外部資金獲得..）、国際 FE への発信について建設的な議論を行うことを主眼とするセッションを開催することを提案する。

<企画の進捗と提案>

[講演予定者] (1/30 現在 敬称略 順不同)

Future Earth		
GRP	対応小委員会代表	講演予定者
ESG	蟹江憲史(慶応大)	石井敦(東北大)
PAGES	齋藤文紀(島根大)	横山祐典(東大)
GLP	春山成子(三重大)	渡邊悌二(北大)
IMBeR	齊藤宏明(東大)	齊藤宏明(東大)
IGAC	谷本浩志(国環研)	谷本浩志(国環研)
SOLAS	西岡純(北大)	代理検討中
FutureEarth Coasts	速水祐一(佐賀大)	回答未着
iLEAPS	檜山哲哉(名大)	檜山哲哉(名大)

WCRP		
Core Project	対応小委員会代表	講演予定者
SPARC	佐藤薫(東大)	佐藤薫(東大)
GEWEX	高薮縁(東大)	高薮縁(東大)
CLiC	榎本浩之(極地研)	榎本浩之(極地研)
CLIVAR	見延庄士郎(北大)	見延庄士郎(北大)

他、FE-Asia、旧 DIVERSITAS (FE) のメンバーも招待済み

[各 GRP/WCRP 研究プロジェクトからの講演で紹介していただきたい内容 (案)]

1. 研究プロジェクトの研究対象と体制 (おもに国内)
2. FE 発足前/後の 目玉となる研究成果 (英語も) とそこで研究プロジェクトが果たした役割
3. ESSP-GEC 時代から FE-GRP 体制に変わって、研究の進め方がどう変わったか (変わってない点も)
4. 今後、地球環境問題の解決に向けて、取り組まなければならない問題点とそのための議論や課題 (異分野/他の GRP・研究プロジェクトとの共同研究へのビジョンなど)
5. 研究推進の立場から、グローバルコミュニティ、国内コミュニティとしての FE、WCRP への提案、要望

項目 1, 2, 3 は 主に各研究プロジェクトから全体へのインプット

項目 4, 5 は 主に当日のディスカッションタイムと、Output (下記参照) 作成時の議論の内容を想定。

[本セッションの Output (案)]

セッションコンビーナーは本セッション開催後に以下のようなアウトプットを考案中である:

1. (開催直後) FE の日本語 HP と FE の国際 HP のイベントまたはニュース欄に
「日本からの FE-GRP/WCRP-CP シナジーへの試みの成果」として投稿。
2. (開催後 1~2 ヶ月以内) 各研究プロジェクトからのインプット (上記項目 1, 2, 3) 特に研究成果のハイライトを 1 段落ずつから半ページに講演者を中心にまとめ、これにプロジェクト横断での議論、将来相互連携構想やグローバルコミュニティへの提案 (上記項目 4, 5) を合わせた原稿を作成、日本・アジアの地球環境研究の現場の最新情報として、国内外へ発信 →ジャーナル、Web 媒体などを想定。
発信媒体例: 「学術の動向」誌 「Anthropocene」誌へ投稿など

[今後のスケジュール (案)]

2018年
 1/22 1/31 **本日** 2/19 4/25 5/20 7月ごろ

